

資料 2

下田市立小中学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画の進捗状況について R8.8.27 下田市教育委員会

1 令和 6～8 年度における 4～7 月の時間外在校等時間について

●小中別の時間外在校等時間の状況

	1 人当たりの 月平均	月 45 時間以下	月 45 時間以上	月 80 時間以上
R6 小学校	41 時間	60.2%	36.2%	3.6%
R7 小学校	40 時間	65.6%	29.7%	4.7%
R8 小学校	38 時間	76%	21%	3%
R6 中学校	72 時間	17.3%	51.7%	31%
R7 中学校	66 時間	20%	50%	30%
R8 中学校	53 時間	35.5%	54.8%	9.7%

●役職別の一人当たりの月平均時間外在校等時間の状況

R6 小学校		R6 中学校	
校長	40 時間	校長	27 時間
教頭	74 時間	教頭	132 時間
教諭	40 時間	教諭	72 時間
養護教諭	37 時間	養護教諭	79 時間
事務職員	35 時間	事務職員	57 時間
R7 小学校		R7 中学校	
校長	39 時間	校長	55 時間
教頭	70 時間	教頭	120 時間
教諭	37 時間	教諭	68 時間
養護教諭	40 時間	養護教諭	75 時間
事務職員	38 時間	事務職員	38 時間
R8 小学校		R8 中学校	
校長	48 時間	校長	53 時間
教頭	65 時間	教頭	122 時間
教諭	35 時間	教諭	52 時間
養護教諭	34 時間	養護教諭	68 時間
事務職員	34 時間	事務職員	22 時間

●学校別の一人当たりの月平均時間外在校等時間の状況

R6

稲梓小学校	45 時間	下田小学校	38 時間
稲生沢小学校	56 時間	大賀茂小学校	31 時間
白浜小学校	47 時間	朝日小学校	28 時間
浜崎小学校	42 時間	下田中学校	72 時間

R7

稲梓小学校	44 時間	下田小学校	42 時間
稲生沢小学校	48 時間	大賀茂小学校	30 時間
白浜小学校	51 時間	朝日小学校	25 時間
浜崎小学校	41 時間	下田中学校	66 時間

R8

稲梓小学校	29 時間	下田小学校	37 時間
稲生沢小学校	47 時間	大賀茂小学校	35 時間
白浜小学校	45 時間	朝日小学校	25 時間
浜崎小学校	42 時間	下田中学校	54 時間

《参考》

●小中別の時間外在校等時間の状況（令和 6 年度）

	1 人当たりの月平均	月45時間以下	月 45 時間以上	月80時間以上
小学校	33 時間	79.6%	19.2%	1.2%
中学校	61 時間	27.7%	55.1%	17.2%

●役職別の一人当たりの月平均時間外在校等時間の状況（令和 6 年度）

小学校		中学校	
校長	33 時間	校長	22 時間
教頭	61 時間	教頭	113 時間
教諭	31 時間	教諭	62 時間
養護教諭	31 時間	養護教諭	68 時間
事務職員	30 時間	事務職員	47 時間

●学校別の一人当たりの月平均時間外在校等時間の状況（令和 6 年度）

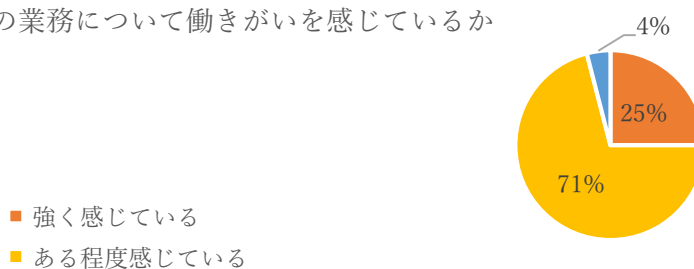
稲梓小学校	34 時間	下田小学校	32 時間
稲生沢小学校	45 時間	大賀茂小学校	27 時間
白浜小学校	38 時間	朝日小学校	23 時間
浜崎小学校	34 時間	下田中学校	61 時間

2 計画における目標について

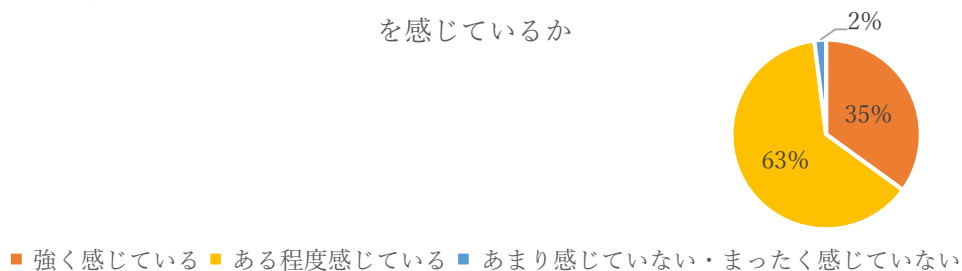
目標	目標値（R9）
自身の仕事に働きがいを感じている教員の割合	100%
児童生徒と向き合える「授業」の時間は楽しいと感じている教員の割合	100%
時間外在校等時間が月当たり45時間を超える教員の割合	0%
1年間における教員の時間外在校等時間の1箇月平均時間	30時間以下
精神疾患による30日以上の特例休暇及び休職者の在職者比率	1.1%以下
年次有給休暇の年間平均取得日数	16日

【4・5・6月の教職員アンケート結果（小中学校合計）】

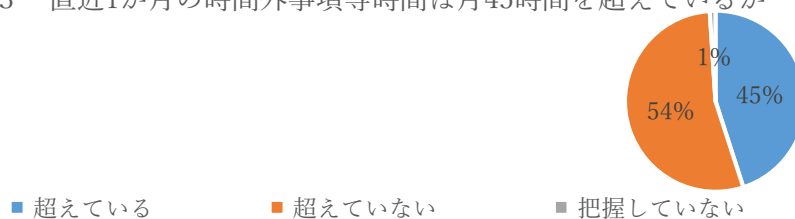
Q1 現在の業務について働きがいを感じているか



Q2 児童生徒と向き合う授業の時間についてやりがいや楽しさを感じているか



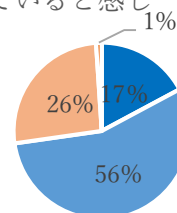
Q3 直近1か月の時間外事項等時間は月45時間を超えているか



Q4 業務に関するストレスや悩みを感じることがあるか



Q 5 業務の影響により、疲労感や睡眠不足が続いていると感じるか



■ 強く感じる ■ やや感じる ■ あまり感じない ■ まったく感じない

《業務量管理・健康確保措置実施計画による各学校での効果的な取組や課題について》

- 時間外勤務時間4.5時間以内という具体的な目標を提示したことで、先生方が時間を自己管理することにつながり、全教員が達成している。(稲梓小)
- 毎月の時間外勤務時間の入力やアンケートに答えるようになって、自己の働き方に対する意識が高まった。しかし、役職や分掌により業務量に偏りがあり、調整したくてもできない部分がある。(稲生沢小)
- 大切にしてほしい業務とそうではない業務について管理職が助言するようにしており、毎月時間外勤務の状況を個別におたよりで伝え、意識化を図っている。また、休憩時間を出勤簿近くにはっておく、毎週金曜日を定時退庁日とするなど、休息をとりやすい環境・雰囲気をつくっている。(白浜小)
- 学期初めや学期終わりの日課を5時間授業などとし、子供たちが学校に慣れやすくする工夫をしていることが、教師にとっては余裕をもって子供たちを見ることにつながっている。結果、働きやすさにつながっているものと思われる。また、行事の前後にゆとりを持った日課を設定し、子供たちが行事に専念し、行事の反省を次に生かせるように工夫していることが、教師にとっても余裕を持った働き方につながっている。(浜崎小)
- 働き方改革は、働きがいや働きやすさと直結していることを意識した。ライフワークハーモニーを合言葉に、そのポスターを作成し掲示するなどして意識を高めた。また、通知表を二期制にすることにより7月の業務量が減り、その分子供と向き合う時間が確保できた。また時間的な余裕が生まれ、保護者対応に丁寧に対応することができた。時間外勤務時間は、相対的に減少傾向にあるが、45時間を超える職員が一定数いる。(下田小)
- 市として取り組んでいただけることで意思も高まり、業務改善につながるものになっていると思う。(大賀茂小)
- 教務主任による「授業時数管理」や「プロジェクト制」による校務の精選により、教職員の業務量が適正に管理されている。一方で、働き方改革により、業務時間等は削減されているが、より集中して働くことが必要となり教職員の負担やストレスは少なくない。(朝日小)
- 部活動終了時刻は、年間を通して16:20、完全下校時刻16:30に見直したことで負担軽減につながった。また、教科の予備時数を減らしリフレッシュデイを設定したり、三者面談期間を伸ばしたりすることで教職員の負担感は減っているように感じる。一方で、現場レベルで負担感を減らすことはできるが、実質の負担を減らすことは難しい。例えば、丁寧な生徒指導をすればするほど時間はとられていく。しかし、これは本来学校の業務であるのでそれ以外の負担軽減ができるように事務の簡素化や外部の依頼の精選を進めていく必要がある。(生徒に関わる行事等の精選についてこれ以上は難しいように感じる)(下田中)

《考察》

時間外在校等時間の結果や教職員のアンケート、各学校からの報告からも分かる通り、各校とも校長のリーダーシップの下、組織的改善を図り教育職員も業務改善に取り組んでいる状況を確認することができた。「学校と教師の業務の3分類(①学校以外が担うべき業務②教師以外が担うべき業務③負担軽減が可能な業務)」を踏まえた業務の見直しを図り、本市では教育職員の業務をサポートする各種支援員の増員配置、保護者連絡システムや時間外の自動音声メッセージの導入、学校徴収金の徴収・管理システムの導入やICT機器・ネットワーク設備の保守・管理、支援が必要な児童生徒・家庭への対応など本実施計画を基に推進している。一方で、学校からの要望が強い学校運営協議会コーディネーターの配置や部活動の地域展開・地域連携に関しては困難な状況と言える。特に部活動の地域展開・地域連携は賀茂地区1市5町の共通の課題でもあるため迅速に対応を進めていく必要がある。本実施計画がスタートしてから5ヶ月が経過しようという中、成果や課題が確認できたため、学校、校長会、教育委員会が連携し、教育職員がより働きやすい環境を整え、質の良い教育実践が子どもたちの未来につながるよう、今後も継続して取り組みたい。